

東京未来大学研究紀要

第18号

2024年（令和6年）3月

目 次

原著

- 保育者のキャリア形成の過程に関する研究（4）
—保育職と一般企業間のトランジションに焦点を当てて—
浅井かおり・浅井拓久也（1）
- 小学生の子をもつ母親の育児における困り感についての検討
井梅由美子（15）
- 幼稚園・認定こども園におけるカリキュラム・マネジメントの実践上の課題
—幼稚園教諭と保育教諭に対するインタビューを通して—
岩井 真澄（27）
- 保護者支援における保育者のコミュニケーション内容による保護者の満足感への効果
大内 善広・野澤 義隆・萩原 康仁（45）
- 算数・数学科授業における新聞の教材活用の可能性についての考察
—教科書を用いた新聞記事の本文理解についての推定分析を通じて—
紙本 裕一（53）
- マインドフルネス体験のイメージ構造
川原 正人（63）
- 乳児とのふれあい体験が大学生へもたらす意識の変化
小谷 博子（73）
- 絵本・紙芝居における「ぶんぶくちやがま」の変遷
—1945年以降の作品を中心に—
佐々木由美子（85）
- 味わって食べることは食関連QOLおよび心身の健康と関連しているか
鈴木 公啓（95）
- 西太平洋における米国の対中国安全保障戦略2007-08
田澤 佳昭（105）
- 汗かきの中高生をもつ母親の心配事
藤後 悦子・山極 和佳（117）
- 未就学児のアルファベットと文字・語彙への興味・熟達に関する研究
—小学校児童の文字学習、指導に示唆すること—
橋元 知子・佐藤久美子（127）

保育士養成校課程に在籍する大学生が抱く社会的養護及び関係施設等へのイメージについて

横畑 泰希 (137)

実践報告

東京未来大学における「ハラスメント防止研修」のアンケート結果まとめ

杉本 雅彦・太田 英樹・野島 誠紘・柳生 崇志 (149)

研究ノート

高等学校応援団生徒のエールの発声技法が与える心理効果について

—発声に対する感情評価分析から—

岩崎 智史・杉本 雅彦・金塚 基 (163)

潜在連合テストの信頼性

—スポーツ・運動に対する態度を用いた検討—

大橋 恵・澤海 崇文・井梅由美子・藤後 悦子 (171)

我が国のいじめの態様に関する論評

—従来型いじめとネットいじめの対比から—

須田 誠 (181)

天気予報から得られるデータをもとにColdblowという地名の由来をさぐる (2021 - 22年冬)

—Ripple 行政教区 Coldblow Farm を対象としたパイロットスタディー—

宅間 雅哉 (193)

『学校日誌』に記録された「小野さつき訓導殉職」について

—附『特別日誌』—

佐藤 久恵 (211)

東京未来大学研究紀要 投稿規程 (203)

紀要委員会 (205)

英文目次 (206)

執筆者一覧 (208)

東京未来大学研究紀要 投稿規程

2021.2.26 改正

1. 本誌に筆頭著者として投稿できる者は、本学の専任教職員とする。筆頭著者として投稿できるのは、1編のみである。非常勤講師（当該年度）は、本学の専任教職員が筆頭著者である場合に限り、共著者となることができる。ただし、紀要委員会が認める場合はこの限りではない。

2. 原稿の内容

- 1) 原稿は、和文または英文とする。
- 2) 原稿は未公開のものに限る。他に投稿中の原稿も認められない。
- 3) 原稿は原著、実践報告、研究ノート等とする。

3. 原稿の体裁

- 1) 原稿は、原則としてA4サイズ、MS Word（2000以降）で作成し、データファイルで提出する。但し、図、表、写真等については、4に定める。
- 2) 原稿には要約とキーワード（5語以内）を付す。要約は原則として、和文、英文のどちらかとし、和文400字以内、英文175語以内とする。要約に他の言語を使用する場合は、紀要委員会に検討を依頼することができる。
- 3) 原稿は1ページあたり、横書きの場合23字×39行、縦書きの場合31字×28行とし、図、表、写真等に要するスペースも含めて、1段組で20ページ以内、2段組で10ページ以内とする。文字サイズを10.5ポイントとし、和文フォントはMS明朝、英文フォントはTimes New Romanとする。1つのデータファイルに、原稿種別、タイトル（和文・英文）、著者名（和文・英文）、要約、キーワード、本文を収める。
- 4) 本紀要は、横書き2段組、縦書き2段組、モノクロ印刷を原則とするが、特殊な版組が必要である場合は、紀要委員会に検討を依頼することができる。
- 5) 上記3)に定める上限のページ超過、原稿用紙手書きの原稿、2色以上の印刷、用紙の特殊な指定、及び製版に特別な費用を要する場合については、執筆者の内の本学専任教員が、その費用を個人研究費、あるいはそれに準ずる資金から負担できる範囲に限り認められる。但し、執筆者に本学専任教員を含まない場合については、その扱いを、紀要委員会で決定するものとする。
- 6) 原稿の形式、引用文献の記載は、各専門分野の慣例に従うこととする。但し、脚注は用いない。
- 7) 英文タイトル及び英文原稿（要約・本文）の書式の細部については、原則としてAPA（American Psychological Association）論文作成マニュアルに準拠する。

4. 図, 表, 写真等

- 1) 提出する図, 表は, 原則としてMS Word (2000以降), Excel (2000以降) で作成するもの, またはそれらに挿入できる形式のものとし, 個々の原版となるデータファイル及びそれぞれのPDF ファイルを, 原稿と併せて提出する。印刷用版下については, 必要に応じて提出する。
- 2) 写真は一色刷か多色刷りかを指定した上で, 原則としてデジタルデータファイルを提出するほか, 必要に応じて, 適宜, トリミングの指示をする。
- 3) 図, 表, 写真等は本文の欄外に挿入位置を指示するか, あるいは本文中に挿入するものとする。図, 表, 写真等にはそれぞれ図1, 図2, …, 表1, 表2, …のように通し番号をつけ, 必ず縮小率と天地を指定する。
- 4) 図, 表, 写真等の説明は, 必要があれば別紙に記す。
- 5) 提出する写真のデジタルデータファイルは, なるべく解像度の高いものとする。

5. 増刷は原則として, 投稿者の負担とする。

6. 投稿された論文については, すべて査読を行う。紀要委員会が委嘱する査読者の査読結果に基づき, 委員会が掲載の可否を決定する。査読は本学学内の専任教員に限らず, 学外者に依頼する場合がある。いずれの投稿についても原稿の改稿を求めることがある。

7. 英文タイトル及び英文原稿(要約・本文)は, 委員会が依頼する英語母語話者により, 英文の査読を行う。

8. 校正に関しては, 投稿者の責任とする。

9. 提出締め切りおよび発行時期

- 1) 投稿を希望する者は, 紀要委員会が定める期日までに指定の執筆意向調査書を所定の方法で紀要委員会に提出する。
- 2) 原稿は, データファイルで締切日までに紀要委員会に提出する。
- 3) 原則として年1回, 毎年3月末日までに発行する。

10. 本誌に掲載された原稿の著作権は著者に帰属する。但し, 本誌に掲載された原稿は, 原則として本学が他の出版物・媒体で公刊することができる。

以 上

紀 要 委 員 会

委員長	宅 間 雅 哉
委 員	大 内 善 広
	小 谷 博 子
	田 澤 佳 昭
事 務	野 島 誠 紘 (EM局)

Tokyo Future University Bulletin
2024 Vol.18

Contents

Research on the Process of Career Development for Childcare Workers (4): Focusing on the Transition between Childcare Professionals and General Companies <i>Kaori Asai and Takuya Asai</i> 1
A Study on Difficulties in Parenting of Elementary School Children among Mothers <i>Yumiko Iume</i> 15
Practical Issues of Curriculum Management in Kindergartens and Certified Kindergartens: Through Interviews with Kindergarten Teachers and Nursery Teachers <i>Masumi Iwai</i> 27
The Effects of the Content of Nursery Teacher's Communication in Parental Support on Parental Satisfaction <i>Yoshihiro Oouchi, Yoshitaka Nozawa, and Yasuhito Hagiwara</i> 45
A Study on the Possibility of Using Newspapers as Teaching Materials in Mathematics Class: An Estimated Analysis of the Comprehension of the Text of Newspaper Articles Using Textbooks <i>Yuichi Kamimoto</i> 53
Image Structure of Mindfulness Experiences <i>Masato Kawahara</i> 63
The Influence of Students' Experience of Contacts with Infants on their Behavior toward Parenting <i>Hiroko Kotani</i> 73
A Study on Transition of "Bunbukuchagama" in Picture Books: Focusing on the Works after 1945 <i>Yumiko Sasaki</i> 85
Investigating the Characteristics of Savoring Food in Eating Habits: Relationship with Quality of Life and Mental and Physical Health <i>Tomohiro Suzuki</i> 95
U.S. Security Strategy for the People's Republic of China in the Western Pacific, 2007-08 <i>Yoshiaki Tazawa</i> 105
Sweat Concerns of Mothers with Sweaty Middle and High School Students <i>Etsuko Togo and Waka Yamagiwa</i> 117

Investigating Pre-primary School Children's Interest and Mastery of the Alphabet and Vocabulary: Implications for Vocabulary Instruction and Learning in Primary School <i>Tomoko Hashimoto and Kumiko Sato</i> 127
Report on the Image of Social Care and Related Facilities Held by University Students in Childcare Training Courses <i>Taiki Yokohata</i> 137
Summary of Questionnaire Results in Training for Harassment Prevention at Tokyo Future University <i>Masahiko Sugimoto, Hideki Ota, Masahiro Nojima, and Takashi Yagyū</i> 149
A Study of Impression Evaluation of the Vocalization of High School Cheering in Japan: An Analysis of the Questionnaire Survey Regarding the Vocalization of Dancing Practices <i>Satoshi Iwasaki, Masahiko Sugimoto, and Motoi Kanatsuka</i> 163
Reliability of the Implicit Association Test for Measuring Implicit Attitudes towards Sports and Exercising <i>Megumi M. Ohashi, Takafumi Sawaumi, Yumiko Iume, and Etsuko Togo</i> 171
Remarks on Modes of Bullying in Japan: Comparison Between Traditional Bullying and Cyberbullying <i>Makoto Suda</i> 181
An Inquiry into the Origin of the Place-Name Coldblow Based on the Data from the Weather Forecast, Winter 2021-22: A Pilot Study of Coldblow Farm in Ripple Civil Parish <i>Masaya Takuma</i> 193
Discussion of the Notion Duty of a Teacher Satsuki Ono in Official Journal of Miya Primary School <i>Hisae Sato</i> 211

〈執筆者一覧〉

*五十音順

浅井かおり	東京未来大学保育・教職センター
浅井拓久也	鎌倉女子大学児童学部
井梅由美子	東京未来大学こども心理学部
岩井 真澄	東京未来大学こども心理学部
岩崎 智史	東京未来大学モチベーション行動科学部
大内 善広	東京未来大学こども心理学部
太田 英樹	東京未来大学こども心理学部
大橋 恵	東京未来大学こども心理学部
金塚 基	東京未来大学モチベーション行動科学部
紙本 裕一	東京未来大学こども心理学部
川原 正人	東京未来大学こども心理学部
小谷 博子	東京未来大学こども心理学部
佐々木由美子	東京未来大学こども心理学部
佐藤久美子	玉川大学・玉川大学大学院名誉教授
佐藤 久恵	東京未来大学こども心理学部非常勤講師
澤海 崇文	流通経済大学社会学部
杉本 雅彦	東京未来大学モチベーション行動科学部
鈴木 公啓	東京未来大学こども心理学部
須田 誠	東京未来大学こども心理学部
宅間 雅哉	東京未来大学こども心理学部
田澤 佳昭	東京未来大学モチベーション行動科学部
藤後 悦子	東京未来大学こども心理学部
野澤 義隆	東京未来大学こども心理学部
野島 誠紘	東京未来大学エンロールメント・マネジメント局
萩原 康仁	国立教育政策研究所
橋元 知子	東京未来大学こども心理学部
柳生 崇志	國學院大学人間開発学部
山極 和佳	東京未来大学モチベーション行動科学部
横畑 泰希	東京未来大学こども心理学部

東京未来大学研究紀要 第18号

2024年3月31日 発行

編集 東京未来大学紀要委員会

発行 東京未来大学

〒120-0023 東京都足立区千住曙町34番12

電話 03-5813-2525

FAX 03-5813-2529

印刷 上武印刷株式会社

〒370-0015 群馬県高崎市島野町890-25

電話 027-352-7445